



第42回全国中学生人権作文コンテスト広島県大会で、尾道市立向東中学校1年 森 園美さんの作文が「優秀特別賞（広島東洋カープ賞）」に選ばれました。作品を通して、人権について改めて考えてみてください。

## 勝手に決めつけないで

「やっぱり黒人っておかしいの？」  
たった一回聞いたこの言葉が未だに私の頭の隅に残っています。

私は、六才のときにアフリカ大陸にあるザンビアという国に家族で引っ越しました。ザンビアでは、インターナショナルスクールに通いました。初めは、「こんにちは。」しか英語で話せませんでした。しかし、私には不安や恐怖という感情はなく、いつもワクワクと楽しんでいた記憶しかありません。それは、周りの友達のおかげだと思います。

学校には、ザンビア人だけでなく、世界中の様々な国の人達がいました。その中には、日本人もいました。その子は、いつも会話の意味が分からない私に意味を教えてくれ、助けてくれました。また、小学校入学前に引っ越した私は、勉強をしたことがなく、授業の内容が全く分かりませんでした。そんな私にみんなは、先生にバレないように答えを教えてくださいました。他にも、みんなはたくさん話しかけてくれ、英語も少しずつ話せるようになり、私はみんなと仲良くなっていきました。学校では、たくさんの国の人がいることを生かした国の文化を交流する行事がいくつもありました。そのこともあり、友達同士でよくお互いの国の文化に興味をもち、楽しく教え合っていました。そうして、私は先生や友達のおかげで、ザンビアでの生活を楽しく過ごすことができました。

そして、約二年ザンビアで過ごした後、日本に帰国しました。帰国後は、東京都に住むことになりました。通い始めた学校には、海外に住んでいた人やハーフの人など様々な人がいました。私がいた国が「ザンビア」という聞きなじみがない国だったので、みんなは驚いていましたが、差別などは全くなく、ザンビアについてたくさん質問してくれました。

そして、約一年半東京都で過ごした後、広島県に引っ越しました。ザンビアに引っ越す前は、広島県に住

んでいたの、ほとんどの人とは「再会」というかたちでした。引っ越してから年月が経ったある日、私は友達と話していました。すると、

「ザンビアってどこにあるの？」

「アフリカだよ。」

「あ～。アフリカか～。てことは、黒人もいたの？」

「うん。」

「あのさ、やっぱり黒人っておかしいの？」

友達は少し笑いながらそう聞いてきました。そして、私はその言葉を聞いた瞬間、頭が真っ白になってしまいました。最初は、ショックな気持ちが大きかったけど、徐々に怒りの感情がこみ上げてきました。「どうして何も知らないくせにそう言うんだろう。」

私が通っていたザンビアの学校は、文化や食、肌の色が多種多様でした。私は、日本に帰国してから、ニュースで初めて「人種差別」を知りました。なぜなら、ザンビアの友達は人種を理由に差別することがなかったからです。比較的珍しかった日本人である私は差別を受けやすい人種だったのかもしれませんが、しかし、先生や友達は、私を差別することなど全くなく、最初から私を一人の人間として受け入れてくれました。

私は、いろいろな人に、

「園美ちゃんは、誰とでも平等に接していていいね。」

とほめてもらうことが多くなり、今では私も自分の長所だと思っています。これは確実に今まで一緒に過ごしてくれた家族やたくさんの友達のおかげだと思います。小さいころから、偏見や先入観をもつ前に実際にたくさんの人と友達として過ごせた私はすごくラッキーだと思います。だからこそ、みんなが私にそうしてくれたように、これから出会っていく様々な人を一人の人間として受け入れたいです。「〇〇だから」という偏見が理由で、誰かの性格や態度が分かることはないです。いつか、みんながそれぞれの違いを受け入れられるといいなと思います。

● 人権男女共同参画課 (☎0848-37-2631)

## 令和5年度小学生人権標語コンテスト

尾道市  
最優秀賞

- 助けてよ 見て見ぬふりして にげる君 (美木原小学校)
- 「だいじょうぶ？」 その一言が 勇気をくれる (栗原小学校)
- 「いやだ。」 「やめて。」 それは相手の赤信号 (久保小学校)